

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第99回 ●

■初の台湾

通常なら11月号はA級リーグの反省を載せるのだが、それは連珠世界で詳しく載せる予定である。そこで、今回は初の台湾について書いてみたい。

10月3日、仕事で急に台湾に行くことになった。9月にはドイツに行ったばかりなのだが、台湾は国内に行くような感覚で気軽に行けた。ただ、関西空港9時半発のため、朝が早かったのが難点か。気候はまだ暑く、日本同様蒸し暑い。でも冷房ががながん効いており、室内では寒いぐらいだ。さて、もともと突発的な出張だったので、連珠など想定もしていなかったが、初台湾！というツイートをしたら、リン君（林皇羽）

が反応してくれた。何でも毎週金曜日は有志が集まって連珠を楽しんでいるらしい。会場への地図が送られてきた。私もちようど金曜日の夜は空いていたので、「これは運命」と思って出かけることにした。しかし、何しろ初めての台湾、土地勘が全くなく行けるかどうかかわからない。ただ、台湾は比較的安全だし何とかなるかなというぐらいの軽い気持ちでトライしてみた。リン君の情報を元に調べてみると、ホテルの最寄駅から地下鉄1本で行けることが判明。最初はタクシーで行く予定だったが、地下鉄で行くことにした。

それにしても台湾の地下鉄は安い。目的地まで80円ぐらいで行ける。今回短期間だったので物価がよくわからないが、現地では比較的安く済ませられるのではないかと思う。（日本人相手は少々高い）

さて、目的地には地図が添付してあったので間違いない。なかなか見つからない。それでも何とかボードゲームバーを発見し、無事入ることができた。

入ってすぐそれらしき団体を発見。「連珠？」と聞いたら「そうだ」と言うので間違いないと思ったが、反応が薄く、あれ？という感じだった。どうも台湾の選手はシャイな人が多く、向こうも恥ずかしがったようだ。私も知っている顔がなかったのが不安だったが、連珠盤があったのを見て安心した。リン君から私が見るといいう情報が入っていたらしく、私と認識してくれた。（林君は体調不良で欠席）ボードゲームバーなので何か注文する必要があるだろうと思う。聞いたところ、1ドリンク制とのこと。冷たい日本茶を注文したら、思

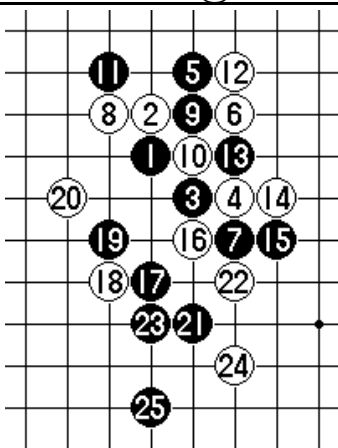
<対局した張さんと>



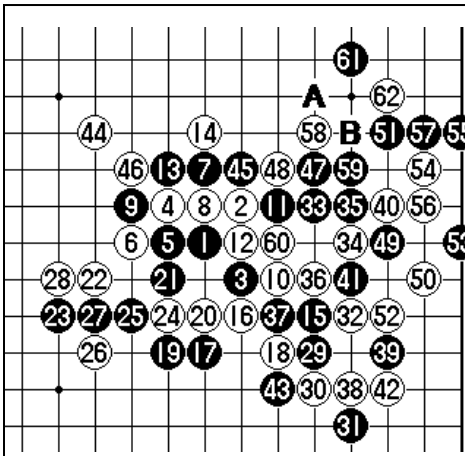
きた。

早速手の空いていた張さんと一局やってみたのが次の図。

黒 河村 白 張



丘月を提示してきたので白



4と七題指定。相手はソーロフはわからんと言つて（多分そういう感じ）、白を取る。私もすらすらと七題を並べたのだが、知らんという割には白6はノータイム。「だまされたな」と思つたが、仕方がないので黒13まで進めていく。白22、24が疑問で、黒25まで詰め連珠のような打ち上げとなつた。

続いて2局目。相手も消化不良だろう。今度は私が浦月を提示し、白4と五題

黒 河村 白 張

を打つ。

黒5に対し白10の手はなかなか独特の感覚だが無くはない。黒17からの展開に迷つた。黒17は反対だつたか？それにしても、張さん強い！正確に防いでくる。これも毎週トップ棋士と石を並べている効果だろう。台湾の人口はまだまだ少ないが、ポテンシャルは感じさせる。そうこうするうちに林書玄とチェンコーハンがやってきて、連珠会らしくなつてきた。こちらの局に熱視線を送ってくる。

さて、勝負の方は右辺で勝負をかけたが勝ちきれなかつた。白52、54・56、62など防ぐのはかなり得意そうだ。実は黒51からはA、Bで勝ちだつた。これは局後検討で見つかつたもので、白50は反対が無難だつた。実戦はその後左辺で白勝ちとなつた。

さて、ここからがまた長かつた。私も「勝てなかつ

たなく、勝ちだと思つたけど？」という感じで振り返ると、張さんも付き合ってくれた。そこからは皆であるでもない、こゝでもない」と局面をつきだした。結構夢中になり、あつという間に時間が経っていく。もう少し他の人も打ちたかつたが、明日の朝が早かつたので（ホテルを6時発）、22時過ぎに帰ることとした。最後に記念写真を撮つたので紹介しておこう。



張さんは01年の京都大会に来たよ、その時會つたはずと言われたが、記憶にない。もう一人、写真一番左の人からもつと前に會つたことがあると言われたが、これも覚えていなかった。しかし、その後フェイスブックでこの方が鍾（しょう）さんであることがわかり、びっくり！。鍾さんなら当然覚えてるが、風貌がすっかり変わってしまった。それにしても台湾はいい所だ。食べ物もおいしい。最後に小籠包の写真を！

